



甲野善紀(こうの・よしのり)
1949年東京生まれ。武術研究者。78年に「松聲館」を設立し、独自の武術研究の道に入る。その研究がスポーツや楽器演奏、介護、教育の分野から注目されている。2007年から3年間、神戸女学院大で客員教授も務めた。著書に『神技の系譜』『剣の精神誌』など多数。

武術研究者

甲野善紀

何でも科学で解明しようとする、説明の
できないものは全部捨てられる。
ありきたりの技ばかりになってしまったんです

聞き手／山口日昇 合いの手／谷川貞治 写真／小林善夫

養老孟司、茂木健一郎、内田樹など名うての文化人との対談本を出版。各スポーツ、介護、教育など様々な分野からも注目されている武術研究者・甲野善紀が語る、古の“達人”たちの凄みと現代との違いとは何か？

人間の微妙な感覚を養つことに
身体の使い方がどれだけ重要かというのを
文科省は認識していません

山口 先生、まず我々の自己紹介をさせていただきますと、こちらにいるのが谷川貞治といます。元『格闘技通信』編集長であり、元K-1プロデューサーだった者です。

甲野 お名前は存じあげています。

谷川 ありがとうございます。光栄です！こちらこそ先生のご高名は存じあげていて、今日はノコノコとやってきてしまいました。

山口 私は91年ごろに『紙のプロレス』という雑誌を立ち上げた後、もろもろあつて現在に至る山口日昇という者なんですけど、約20年前には「幻的格闘技」という特集の中で甲野先生にもご登場いただきました。

甲野 はい、覚えてますよ。

山口 おお、覚えてらっしゃいますか。光栄です！そういうわけで、今日はふたりしてノコノコとやってきてしまいました。

甲野 (20年前の『紙のプロレス』を手にとって) そうそう、前田日明氏が表紙だったんですね。この方、当時から日本刀に興味があったようですけど、いまはすごく詳しくなられているようですね。

山口 もともと凝り性な人ですから、いまは専門家よりも全然詳しいんじゃないかと思えます。

甲野 この頃は私もまだ若いですけど、技はあの頃よりはだいぶマシになったと思います。あの当時は、世界選手権レベルの柔道家と手合わせして驚かれるなんてことはありませんでしたから。ここ何年かの間で日本を代表する柔道の選手や指導者とは10人くらい手を合わせていますが、組み手争いなどで私が出した手を払えないので驚かれます。また、3年ほど前、大阪の高校に招かれて行ったとき、プロボクサーで有名な日選手が見学に来られたので、私の突きを見てももらいましたが、「今までこんなに気配のない突きは見たことがない」とう感想を言われていました。

山口 気配がない突き！

甲野 例えば、こうやっ



1995年に発行された“世の中とプロレスする雑誌”『紙のプロレス』No.21の特集「幻的(ファンタスティック)格闘技」に登場したときの甲野先生。